

国鉄・JRの闘いが再び社会の争点に 関生支援と国鉄闘争を両輪に闘おう

2・16 国鉄集会 (2月16日 葛西区民館) に大結集を



昨年11月の関西地区生コン支部への組合破壊を狙った大弾圧に対して、11月16日、大阪・西梅田公園で「声をあげよう！ 弾圧ゆるすな！ 11・16全国集会」が1200人で開催された。集会は「当たりまえの市民運動・労働運動を守ろう！」「全日建関生支部つぶしを許さない！ 憲法28条・労働3権守れ！」「沖縄の民意をつぶすな！ 新基地許すな！」「民主主義をこわすな！ 表現の自由守れ！」のスローガンを掲げて行われた。港合同や全港湾、関西合同労組をはじめ全国から多くの労組や、改憲・戦争阻止！大行進運動の仲間、関生支部

一つひとつ現場から闘って屈しないことが必ず全体を獲得すると感じています。もうひとつ、1047名の解雇事件で明確な国家的不当労働行為を最高裁にも認めさせ、その責任が旧国鉄ではなくてJRにあったことも一点の曇りもなく明らかになった。満を持して新たな労働委員会闘争を開始したら審理を一切拒否する暴挙に出た。それを裁判に訴えたら裁判所も一切審理を拒否。国家権力との真正面からの激突になっている。こうした全体が一つになって厚い岩盤に穴を開けていく。そういうところに手がかかり始めている。その象徴が、CTS幕張事業所で関委員長が職場代表選挙に立候補し、CTS労組の候補に47票差で大勝したことです。関委員長はJRからの強制出

員長がこの間の弾圧の経過を報告し、その中で大阪府労働委員会が10月21日、関西生コン支部に所属する日々雇用労働者を就労から排除してきた生コン輸送会社に対して「就労排除と団交拒否は不当労働行為」と認定したことを報告した。関西生コン支部の武洋一書記長は、「組合員と会ってほならない」などの不当な保釈条件によって集会に来ることができないことを糾弾し、並んで登壇した2人の執行委員を紹介し、今後とも闘うと力強く宣言した。

大阪・梅田の繁華街をデモ呼びかけ人で沖縄平和運動センターの山城博治議長は、辺野古への埋め立て工事、南西諸島への自衛隊配備を弾劾し、「辺野古でも、立っていれば公務執行妨害、おばーが痛い手を振り上げれば暴力で逮捕、どうなっているのか」と怒りの訴えを行った。さらに表現の自由への弾圧と闘う愛知の市民運動も発言した。川口真由美さんのミニコンサートに続いて、弾圧弁護団から中井雅人弁護士(大阪労働者弁護団)が、「そもそもすべての弾圧が刑事事件にするようなものでない。勾留の長さも異様」と激しく弾劾した。そして武委員長との接見を報告し、自分の事件を語るのではなく、同僚の外国人たちの処遇改善に取り組んでいることを訴えていたと伝え、「弾圧に負けるわけにはいかない」と述べた。集会決議、集会実行委員会事務局長の全港湾・小林勝彦氏が閉会あいさつ後、大阪地裁に向かうデモに出発。「弾圧をやめろ」のシュプレヒコールが梅田の繁華街に響いた。

動労総連合の定期大会が12月8日、DC会館で開催されました(記事裏面)。JRにおける今後の闘いについて田中康宏・動労総連合委員長の発言を紹介します。

田中康宏(動労総連合委員長) 組織拡大こそ絶対の任務

田中康宏(動労総連合委員長) 組織拡大こそ絶対の任務

田中康宏(動労総連合委員長) 組織拡大こそ絶対の任務

田中康宏(動労総連合委員長) 組織拡大こそ絶対の任務

田中康宏(動労総連合委員長) 組織拡大こそ絶対の任務

田中康宏(動労総連合委員長) 組織拡大こそ絶対の任務

田中康宏(動労総連合委員長) 組織拡大こそ絶対の任務

田中康宏(動労総連合委員長) 組織拡大こそ絶対の任務

田中康宏(動労総連合委員長) 組織拡大こそ絶対の任務

田中康宏(動労総連合委員長) 組織拡大こそ絶対の任務

(裏面に続く)

12・8 葉 動労総連合が定期大会

「職場の多数派になろう」
 動労総連合は12月8日、DCC会館で定期大会を開催しました。田中康宏・動労総連合委員長は「動労総連合の闘いは労働者全体を獲得できる」と社会でJRのあり方を根本から変える攻撃との対決を訴えました。川崎昌浩書記長が運動方針を提案し、新たなジョブローテーションと闘い抜いて組織拡大を実現することを訴えた。

続く討論で、動労水戸の代議員水が常磐線全線開通阻止の闘いを報告し、職場代表選挙の実施を求める訴えに水戸鉄道サービスの労働者から共感の声が上がっていると語りました。動労福島は、郡山総合車両センターで、外注化に対する職場全体の怒りの声を組合機関紙に反映させる努力をしていると報告しました。

動労千葉の代議員は、この間の台風の際のデタラメな出勤指示の問題でアンケート調査を行っていること報告しました。北海道から日高線の廃線問題、九州から自動運転の問題が指摘され、1047名解雇撤回闘争の意義が強調されました。

動労千葉の関道利委員長は、動労総連合が職場の多数派になろうと訴え、決戦方針を確立しました。

ワンマン運転拡大の中止を

内房線・外房線 守る会が国交省に要請



内房線と地域を守る会（松苗 禮子代表）と外房線と地域を守る会（藤平輝夫会長）は11月28日、国土交通省を訪れ館山直通の快速・特急列車の復活及び館山発着の特急列車の復活、地域の切り捨てと過疎化を加速し、安全性を犠牲にするワンマン運転拡大の撤回、さらに駅設備や乗り継ぎ列車の改善、さらに台風15号、19号、豪雨災害に踏まえ、今後の災害が発生した場合の復旧対策や代替輸送の問題等、具体的改善を求めて要望行動を行いました。

要請は、今年で3回目を迎え、内房線と地域を守る会からは、館山〜千葉間の直通列車と平日の館山発着の特急列車の復活を改めて求めました。さらに、安房鴨川駅や館山駅、君津駅等での乗り換えの改善、駅のトイレをはじめとした設備の改

善、台風被害に踏まれた復旧や安全対策等の明確化を求めて要望書を提出しました。

外房線と地域を守る会からは、鉄道利用者の利便性を損ない、地域の過疎化に拍車をかけ、安全をないがしろにするワンマン運転の拡大を中止し、公共交通機関としての使命を果たすことを求めました。

国交省の担当者からの回答が行われ、「地元とのコミュニケーションは必要」「JRは地元の意見を尊重する必要がある」との考え方が示され、具体的内容をJRに伝えるとの回答が行われました。

要請行動は約1時間に及び、今後も地域の活性化と内房線、外房線を守るために何年度でも訪れることを告げ、要請行動を終了しました。

東京 労働強化 仮眠時間の削減を許さない 健康と安全を守る闘いを

■深夜仮眠が2時間30分？
 寝ないで仕事しろと言いつのか！

11月25日、動労東京は「冬季一時金並びに11月ダイヤ改に関する緊急申し入れ」を（株）交通機械サービスに対して行い、団体交渉を開催しました。

11月30日からの相鉄・JR直通線開業に伴いダイヤ改正が行われます。埼京線も深夜早朝帯にりんかい線との直通運転が拡大されることにより、これまでの清掃業務の作業ダイヤの改悪が行われることが想定されました。

組合 健康で働いてもらう気もないということか？
 事故が起きますよ？
 会社 やってもらう以外ない

組合 組合は仮眠時間3時間でも大変だと訴えてきた。これ以上の不利益変更については認められない。無理だと知っていて押し付けるのか？
 会社 無理だとは思わない。大変だとは思わんが、組合 何が大変だと思ってるのか？ 言うてくたさい。

会社 ……（沈黙）

行っているという異常な状態です。すでにこの1年半余りの間に2人のエルダー社員が病気やけがで職場を去っています。

今回のダイヤ改正では、入区してくる電車の時間が以前よりもつまっており、現場からは「触車事故」の危険性も指摘されました。労働密度が強化され、なおかつ仮眠時間が削られれば、命にかかわる事故がいつ起きてもおかしくありません。

会社の利益のためにこれ以上労働者が犠牲になることは許されません！

でも同じことが起きている。僕らが立ち向かっている課題は、単にJRの問題ではない。普遍的な問題。JRの攻撃と関西コン支部に対する大弾圧が日本の労働者の未来をかけた闘いとしてある。

動労総連合には二つの任務がある。ひとつは職場から闘いに立ち上がることも、もうひとつは国鉄闘争は日本の労働運動全体の課題です。全労働者の先頭に立つ任務。

職場の意識は変わろうとしている。現場の怒りはそう簡単につぶせない。来年4月から運転士が運転士という職名を失い、同一担務は最長10年になる。いつ強制出向で駅に出されるか、いつ飛ばされるか、10年で管理

今回の会社の対応はこれまでと一線を画す許しがたいものである。

動労東京はこれまでも仮眠時間3時間でも少ないと訴えてきました。作業ダイヤは午前2時から仮眠時間となっており、仕事が終わってもすぐに寝つけるはずはありません。また、これまでも仮眠時間終了の20分前にはテレビが強制的に起こされてきたのです。組合員は「実際には1時間30分も寝られないんじゃないか」と訴えています。

会社は労働組合を弱体化させることを目的に、ハローワークでの募集を停止し、人員の補充をすべてJRのエルダー社員で行ってききました。

そのため徹夜勤務のある八潮事業所は60歳以上の労働者もに闘いましょう。

（表面からの続き）

「表面からの続き」
 扱隠滅して「もう証拠がない」が唯一の支配の方法。

なぜ野党は「立ち上がり」と訴えないのか？ つまり共犯者なんです。国会前に集まってくれと訴えたら埋め尽くされま

すよ。日本以外ではそれが現実の闘争になっている。香港、韓国、フランスで。

ただと決めただけでは貫徹されない。JRでモデルを作った全社会に広げていく。そのため国鉄分割・民営化に協力した労働組合もつぶす。まず打ち出したのが運転士の廃止。これはシヨクドクトリンです。抵抗する余地はないことを見せつけた。次が秋葉原駅丸ごとの外注化です。

これで狙っているのは非正規職だけの社会、労組なき社会。

つたて起つてくたさい

JRで起きていることは国鉄分割・民営化以上の歴史の転換です。何でこんなことが起こっているのか。来年4月1日をもって運転士・車掌という職名がなくなる。今までの考え方は一ミリも通用しないことを突き付けている。背景にあるのは安倍政権の「働き方改革」です。

働き方改革関連法案が成立し

たときに安倍は「戦後最大の改革が実現した」といった。「正社員はゼロにする。解雇は規制されているという誤解をこの社会から一掃する」と。そこまで根本的に変えようとしている。それと労働組合のない社会。こうしたことを安倍は議論している。文字通り戦後最大の改革なんです。

就業規則改正の法理を明確化し、手続きさえ踏んでいれば正当と推認するという。就業規則改悪を裁判で争われたら判決まで確定しないなんて悠長なことは認められない。裁判に訴えて判決が出るまでは刑が確定しないのは世の中の根本ルール。労働組合を否定するものとして社友会をつくった。

JRだけではない。例えば医療関係。全国の公的病院424をつぶすことを打ち出した。これから高齢者が増えて病院が必要なんです。これを放置したら2025年までに国家がつぶれると言つ。数万床のベッドを削減する。病気になることも入院できない。JRと同じことが起きる。労働組合があったらこんなことができるのか？ 学校でも何

でも同じことが起きている。僕らが立ち向かっている課題は、単にJRの問題ではない。普遍的な問題。JRの攻撃と関西コン支部に対する大弾圧が日本の労働者の未来をかけた闘いとしてある。

動労総連合には二つの任務がある。ひとつは職場から闘いに立ち上がることも、もうひとつは国鉄闘争は日本の労働運動全体の課題です。全労働者の先頭に立つ任務。

職場の意識は変わろうとしている。現場の怒りはそう簡単につぶせない。来年4月から運転士が運転士という職名を失い、同一担務は最長10年になる。いつ強制出向で駅に出されるか、いつ飛ばされるか、10年で管理

健康で働いてもらう気もないということか？
 事故が起きますよ？
 会社 やってもらう以外ない

組合 組合は仮眠時間3時間でも大変だと訴えてきた。これ以上の不利益変更については認められない。無理だと知っていて押し付けるのか？
 会社 無理だとは思わない。大変だとは思わんが、組合 何が大変だと思ってるのか？ 言うてくたさい。

会社 ……（沈黙）

今回の会社の対応はこれまでと一線を画す許しがたいものである。

動労東京はこれまでも仮眠時間3時間でも少ないと訴えてきました。作業ダイヤは午前2時から仮眠時間となっており、仕事が終わってもすぐに寝つけるはずはありません。また、これまでも仮眠時間終了の20分前にはテレビが強制的に起こされてきたのです。組合員は「実際には1時間30分も寝られないんじゃないか」と訴えています。

会社は労働組合を弱体化させることを目的に、ハローワークでの募集を停止し、人員の補充をすべてJRのエルダー社員で行ってききました。

そのため徹夜勤務のある八潮事業所は60歳以上の労働者もに闘いましょう。